

第681回

九州朝日放送番組審議会議事録

—— 2026年3月度 ——

◇ 議題

<テレビ番組>

「Discover！北九州～クイズ王伊沢 vs 北九州市の最先端～」

放送日時：1月31日(土)午後1時30分～放送

◇ その他

2026年3月23日(月)開催

九州朝日放送株式会社

第681回 番組審議会議事録

1. 開催年月日 2026年3月23日(月) 15時30分～16時50分

2. 開催場所 九州朝日放送 本社7階A会議室

3. 委員の出席

委員総数 8名

出席委員数 8名

委員長	山根 久資
副委員長	森 慎二
委員	副田 智幸
委員	サーズ 恵美子
委員	小柳 美佳
委員	泗水 康信
委員	林田 真心子
委員	松瀬 萌々香

欠席委員数 0名

放送事業者側出席者名

代表取締役社長	森 君夫
取締役 報道制作局長	大迫 順平
執行役員 総合編成局長	柴田 高宏
広報室長	原 由美子
地域プロデュース本部 本部長	西村 香織
報道制作局 コンテンツ戦略部 部長	山田 利宣
KBC MoooV 番組プロデューサー	中原 幸子
総合編成局次長 兼 番組審議会事務局長	武藤 礼治
番組審議会事務局 (総合編成局)	松永 俊郎

4. 議題

- (1) テレビ番組「Discover! 北九州～クイズ王伊沢 vs 北九州市の最先端～」
放送日時：1月31日(土)午後1時30分～放送
- (2) 3月・4月 ラジオ・テレビ番組編成状況の報告
- (3) 2月 視聴者・聴取者応答状況の報告
- (4) その他

5. 議事の概要

委員の意見（概要）

委員からは、

- 北九州市の魅力を再発見するための様々な取り組みがコンパクトにまとめられており、集中して見る事ができた。自然な形で地域の魅力を紹介しており、価値基準を過度に押し付けない構成に好感が持てた。
- ゲストにクイズ王の伊沢拓司さんを起用したことにより、軽い気持ちで番組を見る事ができた。伊沢さんに謎解きをしてもらうことで、楽しみながら学びの機会を得ることができた。
- クイズを挟みながら町の魅力を紹介するスタイルはオーソドックスかもしれないが、北九州市に在住する人さえ知らないようなことも丁寧に紹介されていた。
- 多くの話題が盛り込まれていながら、それぞれがとても丁寧に取材されていた。テンポよく編集されていたので、飽きずに北九州市の活気を感じることができた。
- 取り組みごとに振り分けられた時間配分がちょうどよく、情報がしっかりと詰め込まれていたため記憶に残る内容だった。
- テーマは未来であるのに、ロケ地は伝統的な場所であることもバランスが良いと感じた。
- それぞれの取り組みが当事者目線で紹介されており、周囲とのつながりや行政の思いが立体的に描かれていたため、大変見応えがあった。
- かつては「工業都市」「公害の街」というイメージが強かったが、「世界とつながる街」として確実に進化していることが認識できた。北九州市に対する印象が変わった。
- MCの長岡大雅アナウンサーや北九州市の武内和久市長のキャラがよく、安定した話ぶりに感心した。クイズ王の伊沢さんのテンションやキレのいい受け答えも小気味よかった。
などの評価を頂きました。

一方、気になる点や望むこととして、

- 市長によるPRや市民の声も交えると、もっとバランスが取れたのではないかな。
- 市長の登場回数が多く番組が市の奨励番組のように感じた人もいたのではないかな。
- （北九州市の人口が）2年連続で転入超過になったことや、水産物の水揚げの推移などをデータで紹介すれば、もっと北九州市の“現在地”がイメージできたのではないかな。
- 高級すし店の海外進出を紹介することが悪いとは思わないが、北九州市の魅力を伝えるのであれば、市民に馴染みがあるリーズナブルな店を紹介しても良かった。

- クイズ王の伊沢さんが意外と正解を出せなかったのはリアリティーがあって良かったが、伊沢さんを起用している割にはクイズの機会が少なかったように感じた。
- 海外からクイズを出題する場面で、現地の人たちが「伊沢！」と呼び捨てにする場面は、言葉や文化が違う人たちにニュアンスや意味が十分に説明されているのかと気になった。
- 市長に対する「キハに取り残された亡霊」というコメントには強い違和感を覚えた。とりわけ、子どもにも見せたくない番組だったので不要だと感じた。

などの批評や提言を頂きました。

これらに対して、制作担当者からは、

- 本作は昨年放送した「Discover! 北九州」に続くもの。KBC が手掛ける地域共創プロジェクト「ふるさと Wish」の一環として、北九州市の未来を語る番組を制作した。昨年の番組審で得られたご意見を踏まえて内容をブラッシュアップして制作に当たった。
- 伊沢さん率いる知的エンタメ集団 QuizKnock はいろいろなクイズ番組で楽しく展開している。堅苦しくなりがちな行政の話を幅広い世代に柔らかく見てもらうため、今回は伊沢さんをキャスティングした。
- 前作は武内市長の登場が多いというご指摘があったので、今回はバランスを考えて控えめにしたものの、中途半端になったという印象はあるので、最善の起用法を再度検討したい。
- 市民の声がなかったことは反省点。あまり実感のない話だけではつまらないので、もう少し市民に目線を合わせて、多くの視聴者に興味を持っていただく構成にするべきだった。
- (北九州市の人口が) 2年連続で転入超過になったことを盛り込むべきだったし、客観的なデータを上手に活用すればもっと視聴者が納得できる内容になったと思う。
- 「クイズが少なかった」とのご指摘はその通りだと感じているし、全体的に伊沢さんのボリュームが足らなかったことは反省点だと考えている。伊沢さんのロケの様子をメインに構成したほうが視聴者の関心を引くと思う。
- 「キハに取り残された亡霊」というコメントは、長岡アナウンサーと武内市長の関係性があったもの。北九州市出身の松本零士さんのアニメをオマージュしたアドリブだったが、制作サイドの意図が伝わっていなければ、使うべきではなかったと反省している。
- 北九州市から最新の情報を提供いただきながら、あくまでも内容は KBC 主導で進めた。放送後、北九州市からは、十分な内容が取り上げられていたと喜んでもらっている。
- KBC では「天神ビッグバン」に焦点を当てた「今田美桜 F のミライ」と北九市の取り組みを紹介する「Discover! 北九州」がある。アプローチは違うが、いずれも地元の魅力を伝えることが目的。メディアとして公権力を監視する役割はあるが、一方でシビックプライドの醸成も重要だと考えている。

などの説明をしました。